

結

MUSUBI

井上陽介
木村悠生
樋口雄大
西敷 健
林田尚毅

いあいさつ

三十日に、第39回卒業式が挙行されました。三十九期生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

元会長の井田茉莉花さんが、先生方をはじめ、今まで支えてきてくれた両親や友人への感謝と、受け身にならず主体的に物事を学んでいきたいという決意表明を答辞で述べられました。自分の力で未来を切り拓こうとする先輩たちの熱い思いが伝わった素晴らしい式でした。

光と愛の福祉寄金

▽8万7045円 大和郡山市、奈良学園中学校高等学校生徒会。昨年9月に開いた文化祭で、被災者支援の募金活動を実施。代議委員会の呼びかけで各クラスがミニマクネットを作り、募金に協力した人たちに配った(寄付は郵便振替で00930・1・24380、読売光と愛の事業団大阪支部へ)



(生徒会長 井上)

遅くなりましたが、文化祭の時の募金を、寄付してきました。ご協力、ありがとうございました。

読売新聞 奈良版
一月二十八日(火)

インタビュー ESS

前回の高校野球部に続いて、今回はESSにインタビューしました。

クラブの目標は、英語力を鍛えることにあります。そのために、ゲームや映像なども使いつつ、みんなで練習をしています。そして、年に一度は観光地へ出向き、外国人の方にインタビューを行って自分の英語力を試したりもしています。



大会への参加は、中学生は「スピーチコンテスト」、高校生は「翻訳コンクール」に出場しています。

スピーチコンテストは、全国から百人以上が出場します。第一次から第三次(フアイナル)審査までの三つの関門があり、第一次審査では、与えられた文を正確に発音する力を競います。この第一次で残れるのは四十人程度という難関です。第二次審査では、話す表情や身振り手振りなども含めて、総合的に評価されます。

本校の中二の部員が健闘し、第一次審査を突破したものの、惜しくもファイナルには進めませんでした。

翻訳コンクールでは、例年哲学的な作品が提示されることが多く、単なる和文英訳ではなく、作品の世界観を理解し、子ども向けの絵本として完成させる必要が

あります。そのため、事前に翻訳の仕方を学びます。

その他にも、中一から参加している奈良県教育委員会主催の「スピーチ・レシテーションコンテスト」(有名なスピーチ、物語、落語などを覚え、みんなの前で話す)や一条高校主催の「レシテーションコンテスト」にも参加し、力試しをしています。

ESSは、単に勉強として英語を学ぶ場ではなく、音楽や映画などを通して文化に触れる場でありたいと考えて活動しています。本格的なハロウィンパーティーを開催したりもしています。また、部員同士の仲もよく、楽しい時間を過ごしています。だから、この記事を読んで気になった方は、ぜひ火・木にEnglish roomへ来てください!

全国大会出場!



囲碁将棋部の高橋宏幸さんは、昨年十一月三日の奈良県予選で準優勝となつて代権を獲得され、二月六日から八日にかけて福島市で行われる「第二十八回全国高等学校文化連盟将棋新人大会」に、アーチェリー部の藪田真士さん・西本亜優さんは、三月二十六日から二十八日にかけて静岡県掛川市で行われる「第二十八回全国高等学校アーチェリー選抜大会」に出場されます。今回、その三名の方からコメントをいただきました。

囲碁将棋部 高橋宏幸さん

自分は「三間飛車」という戦法を用いますが、これまでは、なかなか上手いかず、それが原因でかなり負けていました。それでも諦めずにこの戦法をひたすら研究してきました。その結果、最近になって、何かが見えかけてきたようで、勝率が上がってきました。そして、長い間苦しんでいたご褒美であるかのように、全国大会への道が開きました。どこまで自分の「三間飛車」が通用するのかが分かりませんが、全力で指していきます。

アーチェリー部 藪田真士さん

何とか二年連続選抜大会に出場できることになりました。昨年の大会では、勝てる試合を自分のミスや準備不足で落としてしまい、悔しい思いをしました。その思いを胸に、この一年間練習に励んできました。大会まで残り二か月間、今回は笑顔で終わられるよう、しっかりと調整していきたいと思っています。

アーチェリー部 西本亜優さん

前年の県予選は、悔しい結果に終わりましたが、今回は自分の力を出し切り、出場権を勝ち取ることができました。全国大会でも通用する点数が取れるよう、インターハイでの苦い経験を活かし、練習に取り組みたいと思っています。応援よろしく願います。

